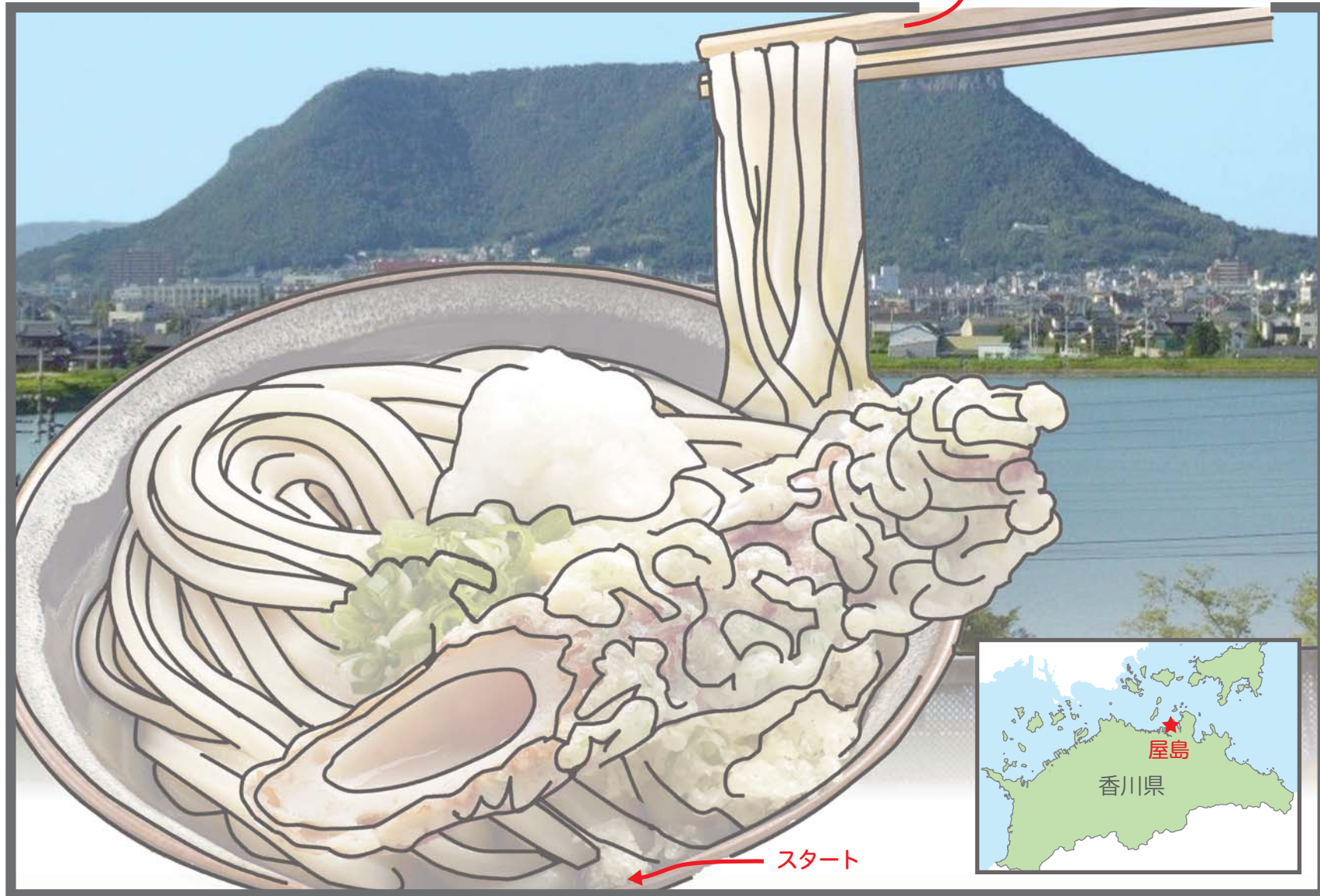


めいろ さぬき
迷路でめぐる讃岐のええところ その①

屋島
(高松市)

標高292mの台形状の山。古くは白村江の戦の後に、屋島という山上全体を「屋嶋城(やしまき)」として構えた。塩田開発が進んだ江戸時代に陸続きとなったが、もともとは島。源平合戦の古戦場としても知られ、平家物語にも登場する那須与一(なすのよいち)の「扇の的」の話が有名である。山頂からの高松市内および瀬戸内海の眺望は必見。日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海国立公園の一部。



讃岐うどん 弘法大師・空海が唐の国から製法を持ち帰ったのが始まりと伝えられている。人口10万人あたりのうどん店の店舗数は約65軒と全国第1位であり、全国平均の約3倍。客自らがうどんを茹で、だしをかけるセルフ店舗も多く、楽しめ、安価であるため、住民だけでなく観光客にも親しまれている。